

あなたの声を社会へ 世界へ 組合はあなたがつくれます

都教組八王子支部

都教組八王子支部ニュース No.5 2023/6/15

# 八王子支部ニュース

Tel : 042(623)1141 Fax : 042(627)8741

E-mail : sensei@tokyoso-hachioji.com & hachioji-tu@nifty.com



HP

e-mail

## 2023 年度 都教組八王子支部大会

職場の疑問、怒り、成果の共有、励まし、そして確信へ

～発言から(要約)～

### ◎M 中学校の国語科教員欠員について

昨年度産休に入る予定の1学年の国語科教員が体調不良で予定より早く休みに入った。はじめ産代教員が見つからず、他教科に振り替えてしのぎ、ほどなく昨年度内の約束で産代教員が見つかった。しかし、年度末になっても新しい産代教員が見つからないまま、産代教員の国語は2年所属ということだけ決めて校内人事が発表された。結局4月



なっても産代教員は見つからず、2学年は1名欠員のままスタートとなり、週4時間の国語授業は2時間を他教科に振り替え、2時間を他学年の国語科教員が授業をすることになった。2時間の国語に授業は、5クラスで10時間になるので普通に授業はできず、5クラスを3クラスと2クラスに分けてリモートの合同授業となった。例えば、1組で授業を行い、2組と3組の生徒にリモートで配信するなど。この状態が2か月過ぎ、学校にはさまざまな弊害が出てきている。

- ① 2学年は欠員のまま5クラス7人なので仕事の負担が大きい。
- ② リモート授業を受けているクラスに学年教員が1名入るので空き時間がなく本来の仕事ができない。
- ③ 国語を振り替え他教科の時数が増えて、音楽や美術は1学期分の授業がもうすぐ終わってしまう。

何よりも、2学年の児童は昨年引き続きの不安定な授業形態で生徒個々の負担は相当のものである。6月に入ってやっと時間講師が来ることになったが、週4時間のうち2時間なので、他教科に振り替えていた時数分だけである。担当する他学年の国語科教員の要望でリモート授業はやめになったが、5クラスを2クラス、2クラス、1クラスに分け、2クラスの授業は大きい教室で合同授業となった。国語科産代教員は見つかっておらず、2学年は1名欠員のままの状態である。2学年担当教員や他学年の国語科教員、時間割担当教員の負担はかなりなものであり、授業を受ける生徒の不安は計り知れない。

### ◎特別支援学級部での取り組み～声を上げれば→少しずつ変わっていく

昨年度まで特別支援教室の指導年数が1年と限られていたのが、ようやく都教委の出す『東京都の発達障害教育』のパンフレットの文言が変わった。2021年度までは「原則の指導期間は1年間です。」と書かれていたのが「学校生活6年間のサイクルが終了する時点必ず振り返りを行うという趣旨で指導期間を原則1年間と定めています。」「必要な場合には1年間指導の延長し～あらためて指導の支援策を検討し、特別支援教室での指導継続を求め、児童生徒の状況に応じ適切な支援を行っていきます。」という文言が加わった。私たちが、こんなのは絶対におかしいと言い続け、みなさんの5万人に近い署名を集めた結果だと思う。執行委員を経験して、八王子支部はすごくよく市教委交渉をやっていて、市教委も最初から延長期間を区切るつもりはないと言っていた。また、特別支援学級の時間講師の配当基準がかなり厳しく3学級以上行には配当がなかった。(実際に八王子では配当されていたが)それが、1学級校及び知的障害の2学級校の条件が、6

時間を超えないという条件はあるが、1学級校以上になった。これは5学級であろうが6学級であろうが実質全学級配当されることになる。すごく大きな全盛である。何度も何度も署名を集めたり、声を上げたりすることが、必ず成果になると感じている。

## ◎特別支援学級から担任が1名はがされた怒り

特別支援学級3学級4担任でスタートしたが、2年生に産休代替で入っていた方が体調不良で退職されることになった。次の産休代替の方が見つからず、特別支援学級の担任である新採教員がはがされ担任になった。校長も謝りに来たが、担任をしている教員をはがして付け替えることに怒り。「仕方がない」で終わりにしてよいのか。

## ～交流&アンケートに寄せられた記述(要約)～

・教室専門員をしている。巡回の先生たちの定数が増えたため(児童12人に担任1人)大変忙しくなっている。指導延長のための書類が多すぎる。(N小) ・自閉的傾向が強く、集団が厳しい子どもが増えている。特別支援学級のようにグレーゾーンの子どもの多い。企業出身の管理職が、自己申告で暴言を吐き、担任を泣かせている。学校の衛生委員会で管理職についてのアンケート調査をしている。病休者も出ている。(A小) ・産代の方が来ました。中学音楽の免許しかなく、6月より担任をもちますが違法ではないか疑問です。

(T小) ・管理職を含め、教員の欠員は職場全体を壊す大問題だと思いました。「何とかやっています。」で済ましてはいけないことだ。交流して、どの職場も疲弊していることが分かった。今日参加して力をもらえた。(M小) ・職場、なんだかあわただしい。(S小) ・市内の各学校で教員不足・欠員が起きていることが印象的だった。組合をパイプに教育委員会に交渉したり、情報を共有したりすることの大切さを改めて感じた。(M中) ・わが子がM中で、1年の国語が大変と聞いている。異動してきたばかりの先生で辛そうな状況を何とか改善してほしい。妊娠のための体育軽減講師がいないため、学年で回している。(N小) ・欠員の問題はどれも大変だと思います。八王子だけでなく都内あちこちで同じ状況と聞いている。相談できる場所があることはありがたいと思った。M中の問題はとても深刻だと思った。人が足りないのは校内でフォローするのは仕方がない部分もあるが、いつまでも改善されないのは本当に問題だと思う。いろいろ知ることができ、少しでも他の人に伝えたい。(C小) ・グループ討論が良かった。いろいろな状況を知ることができた。G小でも8月いっぱいまで病欠の人がいて、少人数算数の教員が担任をしている。育児のため短時間勤務の方がいる。本人の体調や育児のために大変良いことだと言っている。このような仕事の仕方もあることをアピールできるとよい。(G小) ・切実な話を聞くことができ、自分の勤め先どころではないと思った。再任用の体育の方が、M中に週3回も行っている。勤務時間内に仕事を終わらせようという意識が多くの人にあり意識が低いと感じる。(K中) ・それぞれ本当に力のこもった発言であった。組合の存在意義を強く感じた。子どもたちがあまりにもおかしい。原因究明を。学校現場に押し付ける仕事を半減しなければ教員不足は永遠に続く。(Y小) ・ついに教員不足で違法なことが「しょうがないよね。」で行われるようになり、指導すべき都・市教委見て見ぬふりを決め込んだ。管理職が言わなくても、時間外の会議や作業を主幹、主任、教員、新任など若い教員が進んで行うようになった。(F小)

## 都労連 2023 年東京都人事委員会要請署名

昨年、都人事委員会は初任給をはじめ初任層のみに給与改定を行い、物価高騰に苦しむ職員の期待を裏切る不当勧告を行いました。学校現場では年度初めから多くの欠員が生じ、さらに多忙化に拍車がかかり、ますます長時間労働に追いやられています。懸命に働いても残業代もなく、実質賃金が激減する中、教職員は苦しい生活を強いられています。都教組は、都労連とともに秋の都人事委員会勧告に向け、賃金・労働条件の改善に向け全教職員署名に取り組みます。

とりくみ期間 6月30日(支部に届けてください)

対 象 全教職員

## 運動会で

民舞やりませんか

・7月30日(日)

・第三小学校多目的室

花笠音頭 エイサー 春駒  
御神楽 ソーラン

他にリクエストがあれば支部  
にお知らせください。

八王子民舞を学ぶ会